

平成 17 年 10 月

## 試験研究業務月報



10月下旬における樹勢。左が簡易型養液土耕システムで栽培した区、右が慣行区

### 千両ナスにおける養液土耕栽培技術の開発

トンネル早熟栽培で千両ナスの養液土耕を検討したところ、10月までの総収量は反収で慣行区18tに対し養液土耕区25t(39%増)、秀品収量は慣行区11tに対し養液土耕区16t(45%増)と大幅に増収しました。

養液土耕は土壤に施用する肥料量も少なく、うね間に湛水しない環境に配慮した省力的な栽培法です。しかし、台木による収量の差や給肥システムの設置等の課題が残っています。本年度は予備試験として設置した簡易型システムや新たな台木の検討等を行い、普及に向けて体系化を進めます。

農業総合研究所